

デジタル技術で管路管理効率化

豊橋市上下水道局

MCP Cアワードでグランプリ

漏水事故早期対応システム

グランプリと総務大臣賞を受賞した。24日に都内で表彰式が行われ、木和田治伸・豊橋市水道事業及び下水道事業管理者、下水道局長が安田靖彦・MCP C会長と竹村晃一・総務省総合通信基盤局長から表彰状と楯を受け取った。

木和田管理者は表彰式で「大変光栄で、共創事業者であるフジテコムとともに受賞したと思っている。老朽化した管路の更新が課題となっており、維持管理に力を入れたいかなければならない状況のなかで、漏水の早期発見、予防保全につながる素晴らしいシステム。さらに進化させることで広く普及していくことを願っている。今後もデジタル技術を中心に有効な新しい技術を取り入れて水道施設の維持管理を行い、より一層安心・安全な水道水の供給に努めていきたいと語った。

同局は、フジテコムの「リークネットセルラーLNLIC」を導入することにより漏水の早期対応が可能となり、大幅な業務の効率化を達成したことが評価され、今回の受賞となった。

リークネットセルラーLNLICは、仕切弁や消火栓などの弁栓にセンサーを設置して、管路に伝播する音圧値を測定、そのデータを独自のアルゴリズムにより分析することで漏水などの異常の判定を行う。データの通信は携帯通信網LTEE-Mを利用、クラウドサー

バーに自動保存され、パソコンやスマートフォン、タブレットなどに送信される。現場に行くことなく管路の状態を常時監視できることで、漏水発生時の迅速な対応が可能となるとともに、管路の維持管理業務の効率化を図ることができる。同局では、2020年度に実証実験を行い、有効性を確認したうえで、21年度から導入している。MCP Cアワードは、モバイルシステムの導入によりIoT・AI分野で成果を挙げた事例を顕彰することで、IoT・AIシステムの普及促進を図ることを目的に行っている。



表彰式に出席した木和田管理者(右)